

返還ガラス固化体の輸送容器の主な測定結果について（1～2基目）

（仏国 COGEMA ラ・アーク再処理工場における測定結果の最大値）

項 目		合 格 基 準	結 果	
			1 基 目	2 基 目
			S4B130* ¹ 20 体用	S1B130* ¹ 28 体用
放 射 表 面 物 質 密 度	線を放出する 放射性物質	0.4Bq/cm ² を 超えないこと	N.D.	N.D.
	線を放出しない 放射性物質	4.0Bq/cm ² を 超えないこと	N.D.	N.D.
線 量 当 量 率	輸送容器表面	2mSv/h を 超えないこと	0.193 mSv/h	0.197 mSv/h
	輸送容器表面から 1m離れた位置	0.1mSv/h を 超えないこと	0.034 mSv/h	0.038 mSv/h
温度測定 (補正された表面温度)* ²		85 を 超えないこと	48.3	56.0
気密漏洩 (容器本体と蓋部及び オリフィス部の密封部)		1.33 × 10 ⁻³ MPa・cm ³ /s を超えないこと	2.7 × 10 ⁻⁵ MPa・cm ³ /s	1.3 × 10 ⁻⁴ MPa・cm ³ /s
圧力測定		初期充填圧力が 設定値以下であ ること	44.3kPa	19.9kPa

注) * 1 : 承認容器登録番号

* 2 : 周囲温度 38 条件下における表面温度となるように次式で補正した温度

$$(\text{補正温度}) = (\text{測定温度}) - (\text{周囲温度}) + 38$$

N.D. : 検出限界以下を示す。

$$\left(\begin{array}{l} \text{線を放出する放射性物質の検出限界} : 0.03\text{Bq/cm}^2 \\ \text{線を放出しない放射性物質の検出限界} : 0.03\text{Bq/cm}^2 \end{array} \right)$$

Bq : ベクレル (1秒間に原子核が壊変する数を表す単位)

Sv : シーベルト (人間が放射線から受ける影響の度合いを表す単位)

返還ガラス固化体の輸送容器の主な測定結果について（3～5基目）

（仏国 COGEMA ラ・アージュ再処理工場における測定結果の最大値）

項 目		合 格 基 準	結 果		
			3 基目	4 基目	5 基目
			S11B130* ¹ 28 体用	S12B130* ¹ 28 体用	S2B130* ¹ 28 体用
放 射 表 面 物 密 質 度	線を放出する 放射性物質	0.4Bq/cm ² を 超えないこと	N.D.	N.D.	N.D.
	線を放出しない 放射性物質	4.0Bq/cm ² を 超えないこと	N.D.	N.D.	N.D.
線量当量率	輸送容器表面	2mSv/h を 超えないこと	0.200 mSv/h	0.226 mSv/h	0.247 mSv/h
	輸送容器表面から 1m離れた位置	0.1mSv/h を 超えないこと	0.034 mSv/h	0.037 mSv/h	0.034 mSv/h
温度測定 (補正された表面温度)* ²		85 を 超えないこと	57.1	52.9	55.3
気密漏洩 (容器本体と蓋部及び オリフィス部の密封部)		1.33 × 10 ⁻³ MPa・cm ³ /s を超えないこと	6.5 × 10 ⁻⁵ MPa・cm ³ /s	2.2 × 10 ⁻⁵ MPa・cm ³ /s	2.8 × 10 ⁻⁵ MPa・cm ³ /s
圧力測定		初期充填圧力が 設定値以下である こと	19.8kPa	19.8kPa	19.1kPa

注) * 1 : 承認容器登録番号

* 2 : 周囲温度 38 条件下における表面温度となるように次式で補正した温度

$$(\text{補正温度}) = (\text{測定温度}) - (\text{周囲温度}) + 38$$

N.D. : 検出限界以下を示す。

$$\left[\begin{array}{l} \text{線を放出する放射性物質の検出限界} : 0.03\text{Bq/cm}^2 \\ \text{線を放出しない放射性物質の検出限界} : 0.03\text{Bq/cm}^2 \end{array} \right]$$

Bq : ベクレル (1秒間に原子核が壊変する数を表す単位)

Sv : シーベルト (人間が放射線から受ける影響の度合いを表す単位)